

森のテクノ

NO.110
新年号
2026.1.15

謹賀新年

本年もどうぞ
よろしくお願いいたします。

(社)高知県山林協会



目次

●年頭に当たり	1	●令和7年 治山・林道・体験ツアー	8
(社)高知県山林協会 会長理事 和田 守也		(社)高知県山林協会 事業部長 大崎 孝文	
●新年のごあいさつ	2	●丸太切り体験	10
高知県知事 濱田 省司		『もくもくエコランド2025 第8回森林環境学習フェア』から 丸太切り体験チーム 佐藤 知幸	
●新年のご挨拶	3	●テクノ ア・ラ・カルト	11
-森林土木コンサルタント連絡協議会50年と民有林林道事業100年に当たり-		—めでたい長寿 その側面—	
(社)日本治山治水協会・日本林道協会 専務理事 津元 賴光		(社)日本森林技術協会 高知事務所長 長澤 佳暁	
●南海地震に備える	4	●県立甫喜ヶ峰森林公園から	13
高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター 客員教授 岡村 真		指定管理者 (社)高知県山林協会 甫喜ヶ峰森林公園 主任 黒津 光世	
●「工務から振興へーみんなでつくる地域の森」	6	●動 向	15
高知県嶺北林業振興事務所 技師 早川 基貴			



年頭に当たり

一般社団法人高知県山林協会

会長理事 和田守也

新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはお揃いで、穏やかな初春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。併せて、会員の皆様をはじめ関係各方面の皆様方から旧年中に賜りましたご支援、ご協力に対しまして心より感謝を申し上げます。

昨年は、北・東・西日本を中心に高温となり統計開始以降、最高気温を記録した年となりました。多くの地方で早かった梅雨入りに続き、過去最も早い梅雨明けで6月後半から猛暑日、少雨が顕著となった地域や他方、8月上旬から中旬にかけて九州地方では大雨となり甚大な被害をもたらしました。

また、2月に発生した岩手県大船渡市の山火事は、焼損面積3,370haと平成以降で最大の林野火災被害となり、同時期には岡山市、今治市（西条市含む）でも約500haが焼損する山火事が発生し、住民に避難指示が発令されるなど日本でも大規模かつ頻繁に山火事が発生するようになってきました。

特に里山における人と野生動物の共生・住み分けについて強く思う年もありました。クマによる死傷者等の報道が続き、なかでも、人的被害は森林、河川敷から市街地や人家周辺、公園など人の生活圏で増加しており、その要因も単に個体数の増加に限らず、人の生活や活動範囲がかつてと変わってきたこと、どんぐりの豊凶周期の変化などとされ、農林業の衰退や気候変動の影響によるところも一因となっています。

こうした著しい環境の変化は、私たちが安全・安心な生活を維持していくうえで、今まで経験したことのない未知の領域として、直接的に影響を被る現実的な問題となっています。

このような中、令和8年度から実施される国土強靭化実施中期計画では、山地災害危険地区等における森林整備対策、林道の整備・強化、治山対策、森林荒廃の拡大を防ぐ鳥獣害対策についてしっかりと位置づけされ、気候変動に伴い激甚化、頻発化する気象災害等に対し、施策の効果を期待しているところです。

依然として、中山間地域では過疎化や人口減の進行に伴って、林業や森林土木事業を担う人材の不足が深刻度を増しており、現場ではマンパワーが足りずに実践的な技能の継承も困難になることが懸念されています。高知県が推進する若者の所得向上、共働き・共育ての施策を中心とした人口減少対策もさることながら、若者に魅力のある産業へ変化するため業界一丸となって取り組むことが命題となっています。

2026年の干支は“丙午”で、時代の転換期、新しい時代の幕開けであり、理想を模索しながら新たな方向性を定める年とも言われています。

私たちは、高知県の山々を守り、健全な森林を維持していくためのサポートを使命と考えております。昨年5名の職員を新たに迎え、本年も役職員一丸となり頑張ってまいりますので、会員の皆様をはじめ、国や県、関係機関の皆様方におかれましては、当協会の事業活動にご理解をいただき、さらなるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶いたします。



新年のごあいさつ

高知県知事

濱田省司

新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、清々しく新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、一般社団法人高知県山林協会におかれましては、日ごろから本県の森林土木事業の推進をはじめ、森林、林業、環境行政について、格別のご支援、ご協力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

本年も、県民の皆さまとの対話を通じて県政に対する共感を得ながら、皆さまと共に課題解決に向けて前進し、着実に成果を上げながら、更なる共感につなげていきたいと考えています。こうした「共感」と「前進」の好循環を基本姿勢に、県政の進化に挑戦し、さらなる県勢浮揚を目指してまいります。

さて、現下の県経済は、個人消費が堅調に推移し、雇用者所得も着実に増加するなど緩やかに持ち直す一方で、物価高騰の長期化と賃金水準の上昇により、事業者への影響が拡大しています。加えて、若年層の県外への転出超過が依然として続いていること、担い手不足が深刻化しています。

このため、「本県経済の持続的な成長に向けた挑戦」と「若者の定着・増加」の好循環を目指し、第5期産業振興計画で掲げる『「地産外商」と「イノベーション」の取り組みの一層の強化』や『若者の所得向上の推進』などといった重点ポイントのもと、各分野における取り組みを進めているところです。

林業分野では、「山で若者が働く、イノベーション創発型の国産材産地」を目指し、「森林資源の再生産の促進」、「木材産業のイノベーション」、「木材利用の拡大」、「多様な担い手の育成・確保」の4つの戦略の柱による施策を総合的に展開し、原木生産量や木材・木製品製造業出荷額等の増大、若者や女性など多様な人材が活躍できる林業に向けた取り組みを進めています。

「森林資源の再生産の促進」の中では、林道は木材輸送の役割のほか、高性能林業機械を活用した効率的な原木生産のための必要不可欠な産業基盤であることから、林道整備促進協議会等を通じ、地域の皆さまのご意見やご要望をお聞きし、新規路線の採択に向けて積極的に取り組みます。

一方、昨年は、8月と9月に台風や線状降水帯による豪雨災害が発生するなど、全国各地で土砂災害が発生しています。また、森林が瞬時に失われることで土砂流出などの二次被害が危惧される大規模な林野火災が岩手県や岡山県、愛媛県において発生しています。

本県でも、こうした土砂災害などのリスクに対し、引き続き、治山施設の設置や、間伐や再造林などの森林整備を進めることで山地災害防止機能を高め、災害に強い森林づくりを進めるとともに災害時の迂回路などのライフラインとなる林道の整備を推進してまいります。

今後も、県民の皆さまが、将来にわたり安全で安心して暮らしていける県土づくりに全力を挙げて取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、皆さま方のご多幸とご健勝をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

—森林土木コンサルタント連絡協議会50年と民有林林道事業100年に当たり—

一般社団法人日本治山治水協会・日本林道協会

専務理事 津 元 賴 光

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人高知県山林協会の皆様方には、ご健勝で輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年も8月の線状降水帯による豪雨で各地で災害があり、2月3月には岩手県・岡山県・愛媛県で大規模な山林火災が発生しました。また、12月には青森県で震度6強の地震がありました。山地災害の件数は例年より少なかったものの、線状降水帯や台風による豪雨災害、また南海トラフなどいつ起ことも限らない地震災害の危険度は高いままの状況です。被災地の早期の復旧復興を祈念しつつ、減災に向けた不断の取組がなお重要だと感じています。

昨年は、都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会が昭和50年に発足され50年という節目の年であったことから記念行事を行うとともに50年の歩みをまとめさせていただきました。一昨年の能登半島地震への対応として貴協会にもご協力いただいた林道災害復旧調査の全国的支援を行ったことから、規約に「大災害時への応援」を位置付けました。技術支援は平成16年に「山地災害に関する業務協力」を規約に入れ始めましたが、これは平成13年9月に高知県南西部の集中豪雨にかかる復旧につき、貴協会から被災市に職員を派遣したことを契機に平成15年総会において熊瀬理事（貴協会業務担当理事）からの提案で規約改定されたものです。改めて、貴協会の先見性のある取組に敬意を表するとともに、今後においても連絡協議会の中心メンバーとしてご提案やご活躍をお願いする次第です。

また、本年は大正15年に民有林林道への補助事業が始まって丁度100年になります。林道は林業や森林整備のみならず山村生活にも欠くことのできない重要な施設ですが、森林県高知ではその位置づけは格段に高いと思います。平成15年四国森林管理局在勤中でしたが当時の大規模林道について現地審議会があり、委員の方から「高知では林道をしっかりと作って二車線でもいいから山村生活等にもっと貢献すべき」という意見があったことを覚えています。木材生産費の3割から5割をトラック等の輸送費で占めると言われますが、豊富な森林資源を活かすも殺すも幹線林道の整備如何だと強く感じています。林道事業の百年は順風満帆ではなく時には厳しい時代もありましたが、本年の百年を契機に、多くの人にまだまだ足りない林道の必要性を理解していただくため、貴協会をはじめ都道府県治山林道協会と一層の連携を図って参りたいと思います。本年は森林・林業基本計画の改定の年でもあり林道整備の推進を期待しているところです。

このような事業推進に必要な予算については、補正予算と8年度当初予算案を合わせ林野一般公共事業は、昨年より79億円増え2,814億円（非公の路網整備52億円を含む）が確保されました。11月19日の貴協会をはじめ各協会や関係団体、広瀬農林水産大臣政務官、国会の先生など多くの方々にご参加をいただき「2025治山林道のつどい」、前日の森林整備・治山事業促進議員連盟緊急決起大会の決議・要望、各協会や各プロックの熱心な予算要望もあり、貴協会をはじめとする皆様方の活動に厚くお礼申し上げます。

本年も11月の「2026治山・林道のつどい」をはじめ森林・林業さらには山村の発展のため都道府県協会の皆様と一致結束した取り組みを進めて参ります。引き続き日本治山治水協会並びに日本林道協会に対する皆様方のご支援をお願いします。貴協会は、これまでもコンサル関係を含め積極的な活動をされておりますが、本年もますますご活躍ご発展されること、皆様方のご健勝をお祈り申し上げ新年のご挨拶といたします。

南海地震に備える

高知大学名誉教授・高知大学防災推進センター 客員教授 岡 村 真

活断層による地震

南海地震は近い将来必ず起きる巨大（M8.0 以上）地震ですが、起きるのは南海トラフ地震だけではありません。

世界中で発生する地震の約 1 割は日本とその周辺で発生しています。ユーラシアと北アメリカの 2 つの大陸のプレートと、太平洋、フィリピン海の 2 つの海洋プレートの計 4 つがせめぎ合って出来上がってきたのが日本列島なのです。地球上には地震の心配をする必要のない国々も多くありますが、日本本土とその周辺ではどこで地震が発生してもおかしくありません。もともと日本列島は地震による地殻変動と火山活動によって造られてきた島々からできています。

南海トラフ地震のような海溝陸側斜面で起きる海溝型の巨大（M8.0）地震と、内陸部で発生する活断層性地震と呼ばれる地震があります。活断層で発生する地震は、発見されている活断層の下部で発生する地震もありますが、まだ見つかっていない断層で発生する地震もあります。海溝型地震のマグニチュード 8-9 クラスと異なり、多くはマグニチュード 7 クラスなのです。但し、発生するエネルギーが小さいからといって地震被害が小さくなるわけではありません。活断層性地震の多くは内陸の地下の浅いところで発生するので、揺れの時間は短くても、大きな揺れを発生させます。特に大都市直下で発生すれば海溝型地震以上の死傷者を出す場合があります。まだ、見つかっていない活断層も多く、地震のない都道府県はありません。高知県には活動度の高い活断層は見つかっていませんが、だからと言って直下型地震がないわけではありません。高知市の直下 10km 付近でも時々小さな地震があり、南海トラフ地震の前兆ではと新聞紙上を賑わすこともあります。

南海トラフ地震だけではなく、活断層の地震も南海トラフ地震と同様、事前対策で被害を軽減する準備をやっておきましょう。

最近の地震から

最近発生した地震で起きたこと、明らかになってきたことをまとめます。

1 熊本地震 2016年4月16日、M7.3 最大震度7

熊本地震では 4 月 14 日 21 時 26 分に M6.5 の前震があり、その 28 時間後の 4 月 16 日 1 時 25 分に M7.3 の本震が発生しました。2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震（M9.0）でも、2 日前の 3 月 9 日に M7.3 の前震がありました。観測史上最大の M9.5 を記録した 1960 年のチリ地震でも、前日に M8.2 の前震があったことが知られており、大きな地震の前に前震があることは決して珍しいことではありません。ただし、過去 3 回の南海地震では前震はなかったことも忘れてはいけません。南海トラフで M7 クラスの地震が発生した場合、もっと大きな本震の発生に備えて「南海トラフ地震臨時情報」が発表されるのはこのような過去の事例を参考にしているからです。

熊本地震の揺れは、前震で防災科研の益城観測点において最大加速度 1,580 ガル（三成分合計）、本震では同じく益城観測点で 1,362 ガルという非常に大きな揺れを記録しました。また、揺れの強さだけではなく、海溝型の巨大地震で発生が懸念されていた長周期振動がこの活断層性地震においても観測されました。長周期振動は高いビルの固有周期に同期されやすい地震動です。このように地震のたびに、それまではないだろうとされていた揺れが観測されています。これまでの古い基準で建てられた高層建築が心配です。

熊本地震では家屋の倒壊での被害が大きく、37 名の方が亡くなり、同時に発生した土砂災害でも 10 名が災害関連死と認定されています。地震と大雨の相乗効果による斜面災害の危険性が大きくクローズアップされた地震災害でした。

2 大阪府北部地震 2018年6月18日、M6.1 最大震度6弱

大阪府北部の地震の揺れは 6 弱とそれほど強いものではありませんでしたが、それでも高槻観測点では最大加速度 806 ガルが記録されました。ブロッ

ク塀の倒壊によって死亡事故が発生したことにより、またしても全国でブロック塀の見直しが急務とされました。高知県でも津波避難路の周辺はブロック塀が立ち並んで通学路になっていたりと、揺れへの対策は急務となっています。

3 北海道胆振東部地震 2018年9月6日、M6.7 最大震度7

この地震では追分観測点で 1,796 ガルの最大加速度が記録されました。このように、M6 クラスの小さめ地震でも重力加速度の 2 倍に近いような揺れがあることが初めてわかりました。

北海道胆振東部地震では揺れに伴う土砂崩れにより、厚真町を中心に 36 人が亡くなりました。また、震源から遠い札幌市街地の埋立地にある住宅地で土砂崩れが発生したことが注目されました。地震による発電所の停止が引き金となり、北海道電力の発電所が連鎖的に停止していき、ブラックアウト状態（全域停電もしくは大規模停電）に陥ったことにより、私たちが全く想定していなかった災害が発生することも思い知らされました。

4 能登半島地震 2024年1月1日、M7.6 最大震度7

すでに知られていた能登半島の北部海岸沿いにある浅海底の活断層が動きました。この地震では多くの耐震性のない昭和 56 年 5 月以前の古い木造家屋が多く倒壊して、253 人が圧死。能登では古い木造家屋の 48% が未耐震だったのです。

この地域は最近 10 年ほど小さな地震が続いていたものの耐震補強が進んでいなかったのです。人は地震の揺れで死ぬのではなく、自宅の古い木造家屋により死んでいくのです。阪神淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震では、神戸市の長田区を中心に約 5,000 人が自宅の倒壊により亡くなりました。

海外の学会に出れば、これほど文明の進んだ、技術も資金もある先進国日本で、なぜこれほど多くの人が毎回の地震で亡くなるのか、理由がわからないと世界の地震の研究者たちは口をそろえます。

能登半島地震では長さ 150km の活断層が動き、その約半分の 70km が佐渡へ伸びる海底部であったために、約 1 m の高さの津波が石川県の富山湾側の海岸部を襲いました。

特にこの地震では明瞭な地殻変動があり、輪島市の北西部の海岸で、最大 4 メートルの海岸部の隆起を伴いました。そのため多くの漁港が干上がり、港が使用不能となりました。海岸部に立つと広大な地

震隆起海岸が広がっていました。このような地震後の海岸部の隆起は、南海トラフ地震でも毎回発生しており、地震後の海岸からの救援には大きな障害となります。また港の機能も大きく損なわれてきました。1707 年の宝永南海地震では、室津の港は約 2 m 隆起して港の機能が失われました。このような室戸の先端部の累積変異は 12 万 5000 年間で 200m もの隆起を示しており、現在そこに室戸岬灯台が建っています。灯台の周りには当時の海岸線にあった波に洗われた丸い砂岩の礫が見られます。

能登半島地震では震源から 100km も離れた金沢市の北方、内灘地区では最大震度 5 弱と小さな揺れでも大規模な地盤の液状化が生じました。浜堤の基部にあった内灘の街並みはことごとく傾き、道路は波打ち、低い方に流れ出していました。一瞬にして人の住めない街に変わったのです。この地域での地震はわずか 5 弱でした。岡村は地震から 2 ヶ月が経った夕刻に、電気がついている木造家屋 2 棟にお邪魔しました。ご主人は「一帯は軟弱地盤だと知っていたので、家を建てる前に現地杭を施していた」とのこと。弟さんとこの家の 2 軒だけが液状化による損壊を免れたのでした。

新しい言葉解説

「後発地震情報」とは

「後発地震情報」とは何か？また新しい言葉が現れました。これは 2011 年 3 月の東北地方太平洋沖地震（M9.0）の 2 日前に、宮城県沖地震の予想震源域の約 4 分の 1 が破壊されて、M7.3 の地震が発生しました。この地震破壊が超巨大地震を誘発したと考えられています。もう少し注意して、これらもっと大きな地震が発生する危険性を発表していれば、もう少し被害を少なくできたのではないかとの反省から、この「後発地震情報」の発表が検討されてきました。

今回、2025 年 12 月 8 日 23 時 15 分の地震（M7.6）の地震発生を受けて、初めて出されたのがこの「後発地震情報」です。今回の地震発生は青森県から十勝地域の巨大地震が最近の 400 年間発生していないので、今回の地震がこの引き金になるのではないかと気象庁から発表されました。今後約一週間は東北北部から北海道南部の十勝地域での巨大地震発生に注意することになります。

「工務から振興へーみんなでつくる地域の森」

高知県嶺北林業振興事務所 技師 早川 基貴

1 はじめに

私は令和4年4月に入庁し、中央西林業事務所にて2年間工務を担当した後、令和6年4月、嶺北林業振興事務所に配属となりました。現在は、保安林の許認可業務や、林業の労働環境改善に向けた取組に対する補助金などを担当しています。

2 振興業務について

赴任当初は初めての振興業務だったこともあり、不安な気持ちでいっぱいでした。それはまるで違う職種に転職したかのように、これまでの工務経験を生かせないのではないかと感じていたためです。しかし、思い返せば、私は中央西林業事務所に在籍していた頃、開設する林道が保安林内であったため、林道開設に係る作業許可申請書及び立木伐採届出書を、同所内の保安林担当に提出していました。今は、その窓口業務を私が嶺北林業振興事務所で担当し、事業者や土地所有者から提出される書類に不備等がないか確認する立場になっています。このように、当時の経験が自然と現在の業務に結びついていくことで、不安は徐々に和らいでいきました。

加えて、こうした保安林の許認可業務以外にも、高知県の最重要課題である担い手対策に事務所を挙げて取り組んでいます。

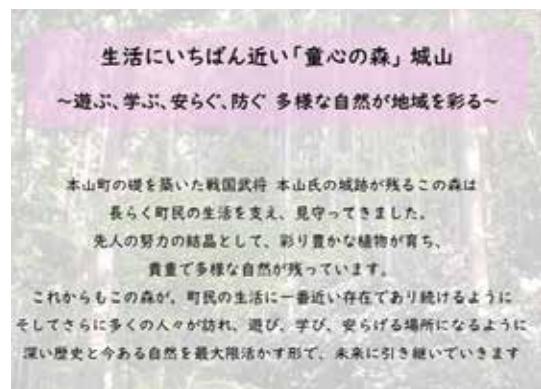
今年度は、その一環として、地域おこし協力隊を巻き込みながら、本山町役場の「城山の森整備事業」を支援しました。

以下はその取組について報告します。

3 本山町城山の森について

本山町では、森林管理・整備の基本方針や長期的な目標を示した「本山町森林・林業ビジョン」を作成しており、その理想の姿として「土佐本山コンパクトフォレスト構想」を掲げています。本ビジョンは、町内の森林を七つの類型（通称：なないろの森）に区分し、豊富な森林資源を最大限活用し、森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるよう、役場が森林整備等の具体的施策を講じているところです。

今回ご紹介する城山の森は、ビジョンの中で、“童心の森”と呼ばれる「人々が遊び学ぶ空間としての森」として位置付けられ、多様な森をコンパクトに配置した森林空間として整備する予定の森林です。また、町の中心地からすぐ南方に望む場所にあり、町にとってもシンボリックな地域です。



城山の森のコンセプト

また、「城山」と呼ばれるとおり、地域内西端には町の史跡である「本山城跡」があり、戦国時代に土佐で活躍した領主本山氏の本拠地がこの本山城でした。城山の森の北側、森の入り口にあたるところには、町の有形文化財である「十二所神社」や、野中兼山が開発した灌漑用水路「本山上井（うわゆ）」

が位置するなど、周辺環境を含めて文化的にも非常に重要なエリアです。林内には町を代表する樹木の一つであるシャクナゲや、カエデなどの広葉樹が植栽されており、森林散策のための遊歩道や町を一望できる東屋が設置されています。しかし、平成30年7月豪雨により遊歩道の一部が路側崩壊し、その後、長年の降雨により地下水起因の路面陥没が発生するなど、遊歩道が活用できなくなったことから、森林の持つレクリエーション機能が十分に果たせない状態となっていました。

こうしたことから、本山町役場より事務所に、遊歩道の復旧に関する指導依頼が寄せられました。

4 城山の森整備事業について

依頼を受けた事務所は、本整備に係る測量・作図・設計の指導に加えて、町の林業ミッションに従事する地域おこし協力隊への研修を兼ねて施行してはどうかと提案した結果、関係者間で話がまとまり、その方向性で取組を進めることになりました。



要整備箇所をポール横断で測量している様子

研修では、ポール横断測量やコンパス測量、野帳の記録方法、算出したデータを基にした必要土量の計算、CADによる作図、治山・林道必携を参照した設計書作成など、一連の実務を協力隊とともに進めました。これらは、工務担当時代に培った技術です。この技術を、林業を志す協力隊へ伝えることが

できたことは、私にとって大きな喜びであり、忘れない経験となりました。中でも、特に印象深かったのは積算です。当事務所には土木積算システムが導入されていないため、歩掛の組立てや諸経費を自ら算出する必要があります。工務担当時代にあまり経験しなかった作業でしたが、上司の助言を得ながら、協力隊とともに学びを深めることができました。研修後、協力隊から「卒隊後の活動にも役立つ内容だった」との声をいただき、振興業務のやりがいを感じました。

現在、城山の遊歩道補修計画は役場で予算化され、施工業者による工事も進んでおり、完成が楽しみです。



測量結果を基にフリー CAD で作図している様子

5 おわりに

私は、振興業務は多くの人と協力しながら進める仕事であるということを日々学んでいるところです。ヘレン・ケラーの「一人でできることは少ないけれど、一緒なら多くのことができる」という言葉は、森林づくりや扱い手育成の現場に強く重なると感じています。私は、今後も関係者の方々と協力しながら、地域の林業振興のため励んでいきたいと思っています。

令和7年 治山・林道・体験ツアー

一般社団法人高知県山林協会 事業部長 大崎孝文

体験ツアーは今年で26回目となり、参加者22名を迎えて、11月3日に開催しました。このツアーは、一人でも多くの県民の皆様に森林のもつ役割や機能を理解して頂き、治山・林道の必要性を知ってもらい関心を深めて頂く事を目的に行ってています。

今回の行先は、津野町治山及び梼原町林道の現場視察、農家レストランくさぶきで昼食と太郎川公園で森林散策、最後に梼原町で『雲の上の図書館』を見学しました。



二宮副会長の開会挨拶



開会では、主催者を代表して、副会長の二宮より「本日は、天気にも恵まれ、今回のツアーを通じて、治山工事や林道工事の必要性、また森の役割や自然環境の大切さ及び当協会の業務内容について県民の皆様に知っていただけたらと思います。」と挨拶があり高知駅を出発しました。

高知市からバスに揺られ、津野町高野の治山視察現場入口へ到着し、その後、約10分徒步で治山視察現場へ移動し、須崎林業事務所内塚チーフより治山事業の概要及び効果、現場の被災直後の状況、施工の状況、施工完了までを又ツアー参加者の質問等にも詳しく説明して頂きました。



高野治山現場



須崎林業事務所内塚チーフの説明

また、近年、巨大化する台風やゲリラ豪雨による大きな被害が各地で発生していることから、「治山事業においては、崩壊した山を早期に復旧することや、被害を未然に防ぐための強い山づくりを目指して事業を行っています。」と説明を受けました。

その後、昼食は農家レストランくさぶきで脱藩定食を頂きました。



脱藩定食

昼食後、ひとときの間、太郎川公園の散策を楽しんで頂きました。

森のテクノ



林道グリーンハット線

次に、樋原町神在居を起点とする林道グリーンハット線へ移動し、林道の役割、林道の必要性と重要性について内塚チーフから「この林道は、林業生産基幹道路としてはもちろん、災害時の迂回路としても役立っております。」と説明がありました。

また、森林施業についての質問、最新の無人林業施業機械についても説明して頂きました。



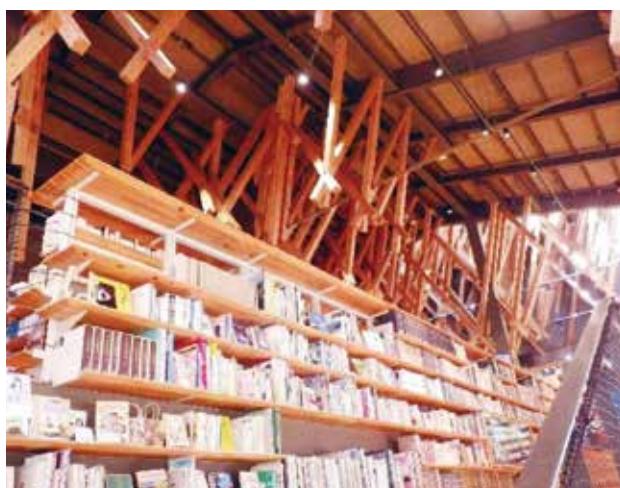
林道の説明をする内塚チーフ

林道視察現場を後にし、樋原町産の木材を使用した世界的に有名な隈研吾さん設計の『雲の上の図書館』に移動し、司書の見目さんから図書館の概要について説明を受けました。



見目司書の説明

このあと参加された方々には、ほんのつかの間でしたがゆったりとした時間を過ごして頂きました。



ツアー最後に、「今回のツアーは天候にも恵まれ、治山・林道の効果及び必要性について少しでも関心を深めて頂けたらありがとうございます。」と永野常務からの言葉で閉会しました。



須崎林業事務所植野課長

ご協力頂きました須崎林業事務所植野森林土木課長はじめ関係者の方々、参加して下さった皆様方にお礼申しあげます。

丸太切り体験

『もくもくエコランド2025 第8回森林環境学習フェア』から

丸太切り体験チーム 佐 藤 知 幸

11月1日（土）2日（日）の両日、高知市東洋電化中央公園で高知県・高知県木材協会主催の『もくもくエコランド2025 第8回森林環境学習フェア』が開催されました。このイベントは、高知県の森林環境税を活用し、森林に関して学ぶ・参加する・使うといった観点から、将来を担う子ども達を中心に森林保全の大切さを学んでいただき、また、県民の皆さんには、森林保全の促進や高知県産材の利用などに理解していただくための情報発信の場として開催されています。



前日の大雨から一転秋空の下、開幕と同時に沢山の人出で賑わい、多くの家族連れが各ブースの木工体験や展示物にと大賑わいでした。高知県山林協会は、昨年に引き続き丸太切りの体験ブースを設置しました。準備した丸太は長さ3.0m未口10cm程度の、ヒノキ、スギ、アカマツ、ヤブツバキの四種類です。丸太切りを体験した方には、材質のちがいによる切れ味と切った木口からの



木の匂いを感じていただくことを目的としていますが、小さい子どもには切れ味どころかノコギリの扱い方に悪戦苦闘です。見かねたスタッフや保護者の助けを借りて切り落とした瞬間は達成感に満ち溢れました。

切り落とした輪切りの木口の匂いを嗅ぐよう促すと、「ヒノキは良い匂いがする」との返事が返ってきます。



イベントの司会進行を務めていた高知放送局の土佐かつおさんも各出展ブースを巡回する「社会見学」と題して丸太切りに挑戦しました。腕が良いのかノコギリが良いのかレポートを交えながら大きめのスギを早々に切っていただきました。



高知県はもとより全国的な林業の担い手不足が喫緊の課題となっています。今回、丸太切りに挑戦したキッズたちがフェアを通じて山や森に興味を持ち、将来、林業関係の道に進み高知県の豊かな森林を守っていくような人材に育ってくれることを願っています。



テクノ ア・ラ・カルト

—めでたい長寿 その側面—

一般社団法人日本森林技術協会 高知事務所長 長澤 佳暁

新年の挨拶は「おめでとうございます」が必須なのは、今も昔も変わりません。何故、「めでたいのか」を改めて推測してみました。

①概括的には、日本という国が比較的平穏に新たな年を迎えたことへの「めでたさ」です。組織や個人にとっても、新たなスタートをきることに対する「互いの賞賛と励まし」がまず考えられます。

②もう一つの要素が、年賀状で見られる「健康への配慮と期待」です。健康への願いは万国共通ですが、その象徴の一つが平均寿命です。日本人の場合はといえば…厚生労働省のサイトから転記したグラフ（下表）です。グラフは右上がりですが、当然ながら最大値までの放物線の形態でかつ最大値近くの増加量が遅減していることがわかります。

ところで、この平均寿命に加えて社会活動に直接関係するのが「健康寿命」です。（同じく下表）

健康寿命とは、心身ともに自立し、健康的に生活できる期間で、2000年（平成12年）にWHO（世界保健機関）が健康寿命を提唱して以来、寿命を伸ばすだけでなく、いかに健康に生活できる期間を伸ばすかに関心が高まっています。（GOOGLE厚生労働省サイトより）

2022年（令和4年）の調査では、男性が72.57歳、女性が75.45歳となっています。



1 高齢化社会にどう対応すべきか？

高齢になるに従い個人差はあるものの一般的に記憶力と共に記憶したデータを引き出す能力も衰えてきます。例えば、しばらく会っていない知人の名前がつと出てこない、映画の俳優の名前が思い出せないなど、その頻度は加齢に比例するのが一般的です。

この記憶力の劣化は、脳の機能劣化と捉えられます。もう少し考察すると、多彩な脳の機能の内、柱である『思考力』を中心に「記憶力」、「判断力」が付随します。記憶力の劣化は先述のとおり加齢に比例しているとみなされますが、「判断力」は加齢と比例しないという事例が提示されています。一方、AIに関しては現役世代が長じているというものの、

- ① AIはツールである認識を持つこと
- ② そのツールで何をどうしたいか、何を聞いかけるかなど論理的に考え方を理解する能力は、総じて若い世代より一定レベルの高齢者が優れている、とありました。

AI時代といえども、そもそも論になると人生経験・思考力に勝るOBが底力（そこぢから）を発揮できるということです。※（この例は本紙2025年4月号でも触れたとおり）

ここで、高齢になっても先の『右脳・左脳のバランスを取ること』（本紙2025年10月号に掲載）がポイントと思い直した次第です。

それらを再度掲げますが、

- ① 右脳を鍛えるには、音楽を聴いたり、絵を描いたり、空間認識ゲームなどが効果的。
- ② 左脳を鍛えるには、読書をしたり、計算問題を解いたり、言語学習などが効果的。
- ③ また、両方の脳をバランスよく使うためには、新しいことに挑戦したり様々な経験を積むことが大切。

特に③については、老若男女問わず意識すべきポイントです。

(1) 個人的視点で考えてみる

先述の健康年齢維持は、あくまでも個人の努力エリアの話でないかと言われても当然です。そこで、個人として健康維持に取り組んでいる例を掲げてみます。

1例目は、私が事務局を担当している「仰山会」(四国森林管理局 OB 職員の会)で、昨年の総会における同会員の「91歳を迎えた今もゴルフで健康維持」の講話です。

「健康維持は 楽しみと励み をもって」

よく話題になる「健康年齢」について、今回は、『「60の手習」90じいさん 今も元気で!!』と題し講話いただきました。

(以下要約文は「である体」で記述)

「もともと野球やテニスなどスポーツには疎通していたが、グリーン会館支配人当時に利用客と円滑に接するために、ゴルフの話題が必要と気付いた。それがゴルフを始めるきっかけとなつた。

ゴルフ練習場では、ゴルフ教室の先生がほかの人に指導する内容を近くの打席で耳をそばだてるこもしばしばだった。このことが、直接的に教わるテクニックに付加して更に上達していった理由かもしれない。

以上が、仕事と並行した大きな楽しみがゴルフとなつた経緯である。

ところが、73歳の時、前立腺ガンになり病院での検査値が桁違いに大きい結果に絶望的になつた。『適度な運動を続けることによって体力を落とさないこと。体力を落とすとガンが進行する。』、これが医者の指示だった。

天国から地獄に堕ちた気持ちだったが、医者からゴルフ程度の運動はOKと許可をもらい、ゴルフを続けることで体力維持に努めた。その後、医者も驚くほどの正常な検査結果となつた。

結果としては、ゴルフがガン克服の薬となつたことは事実であり、今では大手を振ってゴルフを楽しんでいる。

久しぶりに元気な皆さん顔を見て、まだまだ長生きできそうな気がする。元気をもらって頑張りたい気持ちである。

会員の皆さんも、一緒に元気で長生きしようではありませんか。

三途の川を渡る船の予約キップを取り消す気持ちでがんばっていきたいのです。」

(文責:長澤)

2例目が、「ピアノの練習による脳の活性化維持」の紹介です。

以前、医療関係者からピアノを弾くことが脳の老化予防になるとの話を得て、「大人のためのピアノ教室」を2ヶ月間で毎週1回の講習を受けることに。

受講生さん達は、60歳代後半の女性が6人、70歳前

後の男性3人(私を含む)の9人です。受講生の目的は簡単な曲を弾けることと推察したのですが、私の目的はあくまでも指先と脳の連動による脳の活性化です。ピアノの打鍵練習がいつまで、どの程度健康維持に寄与できるかわかりませんが、生活の一つのリズムに取り込めればと思います。



(2) 組織的視点で考えてみる

高齢化は、日本社会自体の課題であると同時に組織においても、底辺をうごめく暗黙の課題です。

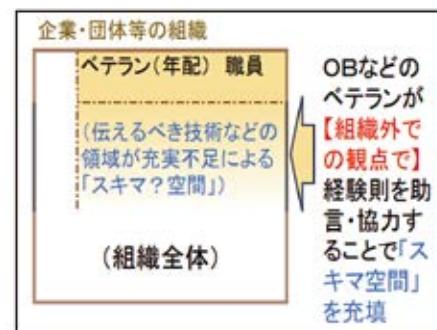
前述の退職者組織(OB会)では、将来的に会員数が減少していくのでは?という課題をかかえています。これに関して現役世代の方と懇談した中で、業務遂行での経験的コツについてOBとの情報交換も有益でないかの提案もありました。この観点は、「そもそも論になると人生経験・思考力に勝るOBが底力を発揮できる視点」(前ページの※)とみなすことができます。

そこで、次のことを考えました。

2 ベテラン職員の活用の場の具現化

以前からOJTなどで、ベテラン職員(組織の幹部、ほか)が指導的な立場で技術継承と向上を図ることです。例えば、OB職員の現役時代も含めての特技や長年築いてきた「生き方」などの講話(意見交換を含む)を企画し、実践することです。(下のイメージ図を参照して下さい)

人生経験と思考力のノウハウを直(じか)に現役世代に伝えることで、結果として組織力、ひいては(大袈裟ですが)日本社会に貢献できるのでは…ということです。



(イメージ図)

県立甫喜ヶ峰森林公園から

指定管理者 一般社団法人高知県山林協会 甫喜ヶ峰森林公園 主任 黒津光世

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

まずは、昨年11月に実施した森林整備活動についてご紹介させていただきます。毎年、リコージャパン高知支社と、当協会のさんりん俱楽部の共催で行っています。最近は一般のみなさんのご協力がなかなか得られないのが残念ですが、今回は県の職員さんにもご協力いただきました。

作業では、写真のようにモジヤモジヤに生えている雑木を鋸で奥のように伐っていってくれました。



いや、そんな上まで結構ですよ！と声をかけるまで、延々上へ上へ…伐ったら伐ったで、片付けも大変なのですが、これもきれいにしてくださいました。

お蔭で、遠足のバスも通りやすくなりました。明るい林道沿いになっています。



また今年度は、令和10年に高知県で開催される、全国植樹祭に向けた苗木のスクールステイ*が始まりました。

苗木の育成指導等を受託しており、一番目にお伺いしたのは、南国市の久礼田小学校さん。県の関係者のみなさんと一緒にお伺いしました。



子どもさんがポットにどんぐりを1つずつ植え、それを植樹祭や関連植樹行事まで大切に育ててもらうためのお手伝いです。



子どもさんにとっては先の長い話ですが、大切に育ててくれることでしょう。頑張って！

これから2月まで、順次県の職員さんと一緒にお伺いする予定です。

※苗木のスクールステイとは

令和10年春に高知県で開催される「第78回全国植樹祭」や関連植樹行事で使用する苗木(どんぐり)を子どもたちに育てていただく取り組みです。苗木の成長を通じて、森林や身近な緑への関心を高め、森林保全の大切さを知っていただくとともに、全国植樹祭の開催に向け機運を盛り上げることを目的としています。

イベント情報

キッズフォレスト

日 時 2026年2月4日(水)、3月11日(水)

時 間 10時～11時

参加費 100円/人(2歳以下無料)



対 象 未就学のお子さんと家族



定 員 10名程度

小さなお子さんがいらっしゃる皆さん、甫喜ヶ峰森林公園のスタッフと一緒に、森の中でお散歩したり、遊んだりしましょう。

雨天時は、学習展示館の中で遊びます。

大人の方には、最後にティータイム!(コーヒー、紅茶)をご用意。ただし、お子さんの見守りはご協力ください。



甫喜ヶ峰森林公園管理事務所

TEL : 0887-57-9007

申し込み

お問合せ

E-mail : hoki@kochi-sanrin.jp

HP : <https://hokigamine.jp>

(一社) 高知県山林協会 新人職員紹介

業務課 林道第一班 技師

うえ がき
上 垣

かおる
薰



広島市出身

1982年生

防衛大学校理工学研究科卒

趣 味：狩猟

コメント：10月から入社しました上垣と申します。他業種からの入社で不慣れなことが多く、ご迷惑をお掛けしますが、一日でも早く戦力となるように努めて参ります。ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

業務課 林道第二班 技術員

ひさ たけ まさ や
久 武 将 也



高知市出身

1999年生

広島工業大学卒

趣 味：釣り・キャンプ

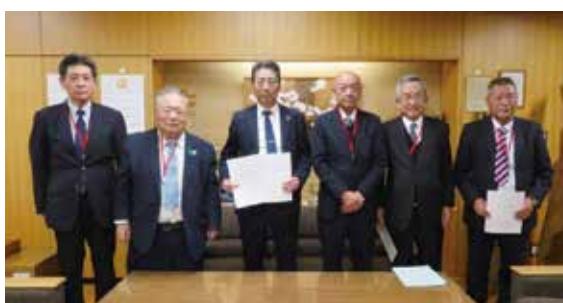
コメント：10月から入社致しました久武と申します。異業種からの転職ということもあり、不慣れな事が多く、ご迷惑をお掛けすることがあるかとは思いますが、一日でも早く貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

動向

県選出国会議員、財務省、林野庁への要望

令和7年11月20日、県内林業5団体で構成する高知県森林協会は、森林整備・木材・治山林道の各関係事項の令和8年度予算等の確保について、衆議院議員中谷元先生及び吉本高知県林業振興・環境部副部長（総括）の同席のもと、財務省主計局に要望しました。引き続き、小坂林野庁長官はじめとした幹部の方々にも高知県森林協会並びに本協会総会決議書による要望を行いました。

また、21日には衆参の県選出国会議員に高知県森林協会の要望と「2025治山・林道のつどい決議」等の要望を行いました。



令和7年度治山・林道コンクールで県内関係者が受賞

令和7年11月19日東京都千代田区の海運クラブにおいて、「令和7年度治山・林道コンクール」の表彰式が行われ、本協会が推薦した下記の方々が表彰されました。

栄えある受賞をお祝い申し上げますとともに、ますますのご発展を祈念致します。

民有林治山工事コンクール

農林水産大臣賞 有限会社 山中建設

林道維持管理コンクール

農林水産大臣賞 植原町長 吉田尚人

民有林林道工事コンクール

林野庁長官賞 有限会社 梶原建設

民有林治山木材使用工事コンクール

(一社) 日本治山治水協会長賞

高知県安芸林業事務所 大野 光

日本林道協会 創立75周年記念林道功労者表彰について

(一社) 高知県森林協会前会長池田三男氏（津野町長）が、林道功労者として林野庁長官感謝状を賜りました。これは本年度が日本林道協会の創立75周年を迎えることから、長年の林道事業の推進・普及などの功績が認められたものです。

また、本協会職員営業管理課主事西内晴美、中村支所主任三吉輝人の両氏は、協会職員として10年以上の勤続により、日本林道協会会長感謝状が授与されました。栄えある受賞をお祝い申し上げます。

令和8年度の林野庁公共事業費政府予算案決まる

令和8年度の政府予算案が12月26日に閣議決定され、林野公共一般公共事業費は1,899億円（対前年度比101.0%）が計上されている。

森林整備事業には、森林吸収源の機能強化・国土強靭化に資する、林野火災対策、クマ・シカ等対策、森林の集積・集約化に向けた間伐、主伐後の再造林、幹線となる林道の開設・改良、花粉発生源対策としてのスギ人工林の伐採・植替えや路網の整備等を推進するとして、1,271億円（101.2%）が計上された。治山事業では、能登半島における複合災害等の教訓を踏まえた短期間でより多くの箇所の安全性を向上させる応急対策の強化や施工性の高い工種・工法の導入促進など、国土強靭化に向けた効率的かつ効果的な取組を推進するとして628億円（100.5%）が計上された。

また、令和7年度補正が11月28日に閣議決定し、林野公共一般公共事業費で863億円が計上され、森林整備事業で523億円、治山事業で340億円となった。

表紙写真

表紙写真 業務課 沖ノ島施設点検にて

◆「森のテクノ」表紙の写真を募集しています◆

日程

1月 21 日	(一社) 日本治山治水協会理事会（東京都）・全国治山林道協会長会議（東京都）
2月 9・10 日	令和7年度春期技術研修会（東京都）
2月 27 日	(一社) 高知県森林協会理事会（高知市）
3月 26 日	第78回全国植樹祭高知県実行委員会（高知市）
4月 20・21 日	令和8年度森林技術者基礎研修会（東京都）
4月 23 日	都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会総会（東京都）
4月 1日～7月 15 日	「第26回森や自然についての子ども達の作文コンクール」作品募集

森のテクノ〈No. 110〉2026年1月15日発刊

発行 一般社団法人高知県山林協会

〒780-0046 高知市伊勢崎町8番24号 TEL 088-822-5331 FAX 088-875-7191
<https://www.kochi-sanrin.jp/>

